

第 11 回アンケート結果 (抜粋)

1. 一般講演 6 : 「操船シミュレータを用いた航海当直における見張り作業のモデル化」

1. データとしてエラーを引き出すために、ややシビアな状況設定だなと思います。
シミュレータを使う時点で被験者は「何かが起こる」と予測してしまうので、データにバイアスが発生するのか、と思います。

A1 : 湾内や狭水道等、船舶が輻輳する海域においては、同時に複数隻の見張りが必要となりますが、実験では外洋(Open Sea)のシナリオを使用しており、見合い関係においても通常当直に比べシビアな状況であることは事実です。シミュレータによるデータのバイアスを少なくするため、事前教示において通常の当直を心がけて頂く旨の説明を繰り返し行っております。

2. 海難事故の撲滅のために、エラーモードの特定をよろしくお願いいたします。

A2 : 今回は抽出できなかったエラーモードに関しても、今後特定していければと考えております。

3. 決定木などを使って、見張りのルールを記述するのはどうでしょうか。

A3 : アドバイスを有難うございました。参考にさせていただきます。決定木等で整理することで、意志決定ノードの整理に役立つかと思われます。

4. シミュレータによる行動パターンの抽出・分析は、かなり実用に近い挙動を把握できることから、有効な手法と思われます。

5. ぜひ標準化してほしいです。